

課題名 14. 合成ピレスロイド剤散布条件下におけるミカンハダニの効率的防除法

成果の要約
 a) ミカントップ乳剤以外の合成ピレスロイド剤も散布後ミカンハダニの異常発生を起こすものが多い。
 b) 合成ピレスロイド剤散布後のミカンハダニ発生初期にニッソラン水和剤を散布するとミカンハダニの異常発生を回避できる。
 c) オサダン水和剤のように感受性がやや低下した薬剤の散布後に合成ピレスロイド剤を散布するとミカンハダニの異常発生が起こる。

第1表 合成ピレスロイド剤散布後のミカンハダニ増加

薬剤名	ハダニ密度	散布前	散布後					
		6月23日	7・3	7・14	7・24	8・4	8・14	8・25
ミカントップEC 1,000倍	D	38	2	63	806	1,032	214	507
ペイオフWP 1,000	D	53	81	556	588	266	148	191
トレボンEC 1,000	D	40	32	147	726	396	264	248
マブリックWP 2,000	D	37	19	57	669	949	469	706
ニッソランWP 3,000	D	37	27	3	9	18	33	41
無処理	D	33	43	192	365	396	479	371

第2表 合成ピレスロイド剤散布下におけるミカンハダニの防除

供試薬剤名	ミカンハダニ雌成虫密度 (/ 100葉)						
	月日 7・15	7・21	7・26	8・6	8・15	8・25	9・4
ニッソラン水和剤 3,000倍	67	1	4	1	4	2	3
オサダン水和剤 2,000	66	0	0	0	7	77	229
無処理	64	154	474	1,103	583	329	51

月日	9・8	9・16	9・22	9・30	10・13	10・27	11・7	11・17
11	0	0	0	0	0	0	0	0
91	0	7	11	18	64	75	79	

6月3日と6月24日の2回、ミカントップ乳剤 1,000倍散布、及び7月16日殺ダニ剤散布

第3表 合成ピレスロイド剤散布条件下における薬剤の防除効果

処 理 区	雌 成 虫 密 度 (/ 100 葉)									
	月 日 8・4	8・9	8・14	8・24	9・3	9・13	9・24	10・3	10・13	10・27
オサダン水和剤	33 Ⅱ	6	0	11	62	138	81	103	54	50
オサダン水和剤+15日後	24 Ⅱ	3	1§	0	52	547	1,101	1,765	3,058	2,719
ミカントップ乳剤										
オサダン水和剤+30日後	23 Ⅱ	6	2	1	9§	18	46	191	570	1,160
ミカントップ乳剤										
オサダン水和剤 + ミカントップ乳剤	22 Ⅱ§	0	3	31	253	779	409	244	223	277
ミカントップ乳剤	24 §	0	80	529	1,686	2,459	23	27	27	61
無 処 理	21	39	78	193	116	343	58	74	41	84

Ⅱ オサダン水和剤 2,000 倍散布

§ ミカントップ乳剤 2,000 倍散布

(長崎県果樹試験場)

普
及
上
の
留
意
点

ミカンハダニに対して感受性の低下した薬剤を使用すると異常発生が起こるので、効果の高い薬剤を選択する。